

赤平から 新しい日本がはじまる

株式会社植松電機
代表取締役 植松 努



植松電機が赤平に来てから22年がたちました。最初は7名だった会社が、今では32名になりました。当初は電磁石を作る仕事だけでしたが、宇宙開発に関わってからは多くの研究者が実験に来てくれるようになったほか、今では毎年約1万人の修学旅行の生徒さんを受け入れることができているようになりました。

これらの成長ができたのは、赤平に移転したからこそです。本当にありがたいことです。

今、日本は大きな転換期を迎えています。

明治維新のあと150年間も増え続けた人口は、急激に減りはじめています。

人が増えているときは作っても作っても足りないです。そこでは「同じことをたくさんすれば儲かる」のです。だから、働く人に求められたのは「余計なことを考えないで、素直で真面目で勤勉に働く」で

した。ところが人が減ったなら余りません。同じ事をやると比べられて安い方が選ばれます。これでは食べていけないのです。ですから、人が減る時代には「ちがう」が大事になります。

そのときに効果があるのが「素人」です。過去の常識にとらわれない新しい発想です。それが奇跡をおこします。

実際、植松電機は電磁石でも宇宙開発でも素人でした。なにしろ1999年までは自

動車の修理の仕事をしていたのです。だからこそ、他の会社と「ちがう」ことができたので、競争相手がいない仕事ができるようになりました。

残念ながら日本は人口増加期が150年も続いたので、「経験者」の力がとても強いです。でもそれでは、過去から抜け出すのは難しいのです。だからこそ、若い人達の自由な発想を古い常識で押さえつけないことが必要になります。

今、僕が教育に取り組んでいるのはそのためです。子どもたちにロケットを作ってもらうのは、「せっかくな科学は発達したんだよ。みんなは大人ができなかったことができるんだよ。」を知って欲しいからです。そして子どもたちが使うロケットの生産は僕が経営するA型作業所で「発達障害・学習障害」といわれる子たちにやってもらっています。学校の勉強が苦手でも社会で通用することを実証するためです。

そして僕は今、リトライできる学校を作る準備をしています。

日本では大学が高価で時間がかかるので、社会に出てしまおうと挑戦することが難しいです。それを変えたいのです。今、その活動が全国の教育機関に理解され広がっています。僕がこれらのことを考えるようになったのは、旧産炭地で生まれ育ったからです。人口がどんどん減り、仕事が見えなくなっていくのをこの目で見てきたからです。だからこそ、人口減少の問題と対策を一足早く考えられたのかも知れません。

僕は人が減る赤平だからこそ試せることがあると思っています。今、僕らと関わった大学生が起業して、赤平で実験や研究を始めています。そういう人が増えてきたら新しいまちが生まれます。

ここでは、新しい道路や移動、家の研究ができます。今、某自動車メーカーが新しいまちを作りはじめましたが、赤平もそれができます。土地はあります。人も集まってきました。

僕には夢があります。それは人の自信と可能性が奪われない社会を作ることです。そのため、価値を生み出す社会が必要です。それはまだありません。でも「なければつくれ」です。

この言葉は、炭鉱時代の修理屋さんたちが使っていた言葉です。それが小さい頃の僕に心に染みついていました。それが僕を支えてきました。「なければつくれ」です。

僕は赤平から新しい日本がはじまると信じています。

編集後記



植松電機 広報担当
倉重 亜衣

赤平の皆様が手に取っていただく広報あかびらでの連載という形で、植松電機を掲載していただき誠にありがとうございます。はじめお話をいただいた時「一年間連載」というワードに正直おどろいていました。当時2年目で入社したばかりで、会社のことをうまく伝えられるかわからない、という不安がありました。会社のことをよく見て、聞いて、書いて、と見て聞いたことをアウトプットすることで自身の成長にもつながりました。さらに、会社の魅力や赤平での宇宙の可能性をより深く知ることができました。本当にこれからの赤平市が楽しみです！

この広報誌を通して、実は、赤平にはすごい人たちが訪れていること、赤平でも宇宙開発をやっていること、できることを知っていただき、今後とも応援いただけるの大変うれしです。また、少しでも「赤平は可能性のまち！」「自分も何か挑戦してみようかな！」と思っただけであれば幸いです。

アンケートにご協力を！

赤平市民の生のご意見を
お聞かせください！
この植松電機の連載記事
をご覧になって、皆様がど
んなことを感じたのか、気
づいたことなどなど率直な
ご意見をうかがい、今後の
参考にさせていただきます。
アンケートへのご協力よ
ろしくお願いいたします。

回答時間約30秒。
QRコードから
回答願います。

